

## 実体経済の動向

### ◇生産・出荷とも増加

(生産——再び増加)

4月の鉱工業生産(速報、季節調整済み(注)、前月比)は+0.5%(船舶を除くと+0.4%)と前月減少(-0.5%、8か月ぶり)のあと再び増加した(前年同月比+6.5%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

4月の生産を財別にみると、建設財が減少したほかはすべての財で軒並み増加した。すなわち、建設財はセメント、アルミサッシ等が増加したものの、H形鋼、鉄骨等が減少したため前月増加のあと減少した。一方、一般資本財はベルトコンベア、農業用機械(コンバイン)等が減少したものの、民間設備投資関連の電子計算機(本体、周辺装置)、間接式複写機、金属加工機械や装軌式トラクタ、ショベル系掘削機、ポンプ、圧縮機・送風機等が増加したため前月減少のあと増加し

た。また、資本財輸送機械もトラック(小型、普通)、小型自動車等を中心に大幅増加となった。

前月小幅減少をみた耐久消費財は輸出不振の二輪自動車が減少幅を拡大したものの、白もの家電(冷蔵庫、洗濯機、レンジ)、エアコン、カラーテレビ、ステレオ、カメラ等の増加から再び増加に転じた。非耐久消費財も日用品(浴用石鹸、家庭用薄葉紙)、灯油、揮発油等の増加を主体に2か月連続の増加となった。

この間、生産財も石油製品(ナフサ、重油類、軽油)、BTX系化学製品(純ベンゾール、キシロール、テレフタル酸、フェノール樹脂等)が減産となった反面、鉄鋼製品(鉄鉄、粗鋼、ホットコイル、コールドコイル)、非鉄加工品(アルミ圧延品、非鉄金属铸件)、機械構成品(一般機械部品、はん用内燃機関、通信・電子部品、標準モーター)、ガラス、化学繊維、紡績糸等が増加したことから、前月横ばいのあと再び増加した。

(出荷——再び増加)

4月の出荷(速報)は、+0.3%(船舶を除くと+0.4%)と前月減少(-1.0%、8か月ぶり)をみたあと、再び増加した(前年同月比+6.6%)。

4月の出荷を財別にみると、生産財、耐久消費

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年				54年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱 指 数	121.9	123.5	126.2	128.5	129.3	128.7	129.3
工 前期(月)比	1.9	1.3	2.2	1.8	1.4	-0.5	0.5
業 前年同期(月)比	6.0	6.9	7.7	7.4	8.3	6.6	6.5
投 資 財	1.9	1.4	3.2	1.9	1.6	-1.0	0.2
資 本 財	2.8	1.0	3.2	1.3	2.4	-1.9	1.5
同 (輸送機械を除く)	4.3	0.1	5.3	2.6	2.0	-2.1	1.5
輸 送 機 械	-0.8	1.1	-2.9	-2.2	3.6	-3.5	5.1
建 設 財	0.4	2.3	3.1	2.1	-0.5	1.0	-1.5
消 費 財	1.8	1.4	1.7	1.4	0.7	0.3	0.4
耐 久 消 費 財	3.1	2.8	1.9	2.0	3.3	-0.2	0.6
非 耐 久 消 費 財	0.6	0.6	1.4	1.0	-0.7	0.6	0.1
生 産 財	1.6	1.2	2.0	2.4	1.0	0.0	0.8

(注) 通産省調べ。54年4月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年				54年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱 指 数	120.2	121.7	124.1	126.9	128.1	126.8	127.2
工 前期(月)比	1.1	1.2	2.0	2.3	1.9	-1.0	0.3
業 前年同期(月)比	5.9	6.6	6.5	6.7	8.1	5.5	6.6
投 資 財	0.7	1.5	2.3	2.5	2.3	-3.7	-0.9
資 本 財	0.5	1.6	1.9	3.0	2.6	-4.9	-1.5
同 (輸送機械を除く)	3.4	1.3	4.0	3.8	0.6	-4.2	-0.4
輸 送 機 械	-3.2	1.1	-2.5	1.0	7.9	-4.5	-2.7
建 設 財	1.0	1.9	3.4	0.8	1.0	-1.5	-0.1
消 費 財	0.1	1.6	0.4	2.8	3.5	-0.5	0.8
耐 久 消 費 財	1.1	2.5	-0.1	3.0	5.4	-1.1	3.2
非 耐 久 消 費 財	-0.7	0.9	1.0	2.4	2.2	-0.5	-0.3
生 産 財	1.7	0.8	2.6	2.3	1.1	0.3	0.6

(注) 通産省調べ。54年4月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

財が増加し、その他の財はいずれもわずかながら減少した。すなわち、生産財は化学製品(BTX系化学製品、エチレン、塩ビ樹脂、合成ゴム)、非鉄地金(銅、亜鉛、アルミ)等が減少したもの、石油製品(軽油、重油類)、鉄鋼製品(ホットコイル、コールドコイル、鋼板)、非鉄加工製品(伸銅製品、非鉄金属铸件)、機械構成品(一般機械部品、はん用内燃機関、通信電子部品、標準モーター)、自動車関連品(かさね板ばね、自動車用鉛電池)、出版・印刷関連品(新聞巻取紙、印刷・筆記用紙)、化学繊維、紡績糸等が増加を続けたため、53年7月以来10か月連続の増加となった。耐久消費財も二輪自動車は減少したものの、小型自動車、白もの家電(冷蔵庫、レンジ)、セパレート型エアコン、カラーテレビ、ステレオ、カメラ等が増加したため、前月減少のあとかなりの増加となった。

一方、一般資本財は、民間設備投資関連の電子計算機(本体、周辺装置)、金属加工機械、パッケージ型エアコン、ポンプ等は増加したものの、公共投資関連のベルトコンベア、クレーン、土木建設機械等の減少が響いて前月に続き減少した。資本財輸送機械も船舶、普通自動車、小型トラック等の減少を主因に2か月連続の減少となり、また建設財もセメント、土石製品等は増加したものの、小棒、鉄骨等が減少したため前月に続き小幅ながら減少した。この間、非耐久消費財も灯油、揮発油等の減少が響いてわずかながら2か月連続の減少となった。

#### (在庫——3か月連続の減少)

4月の生産者製品在庫(速報)は-0.3%と3か月連続の減少を示し(前年同月比-1.5%)、この結果、同在庫率指数(50年=100)も77.9と前月上昇(2月78.6→3月79.8)のあと再び低下した。

4月の在庫の動向を財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械が増加したほかは、各財とも減少した。すなわち、一般資本財は間接式複写機、パッケージ型エアコン等が減少したものの、土木建設機械、農業用機械、金属加工機械等の増

### 鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	53年 (期末)			54年 (期末)	54年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉄指数	102.5	101.7	102.1	102.2	102.5	102.2	101.9
工前期(月)末比	-1.2	-0.8	0.4	0.1	-0.5	-0.3	-0.3
業前年同期(月)末比	-3.4	-4.1	-2.9	-1.5	-2.1	-1.5	-1.5
投資財	-3.0	-2.2	0.0	2.8	0.1	1.2	0.5
資本財	-3.5	-5.6	0.2	-0.1	-0.5	-0.3	2.2
同(輸送機械を除く)	-5.1	-5.8	0.2	3.2	0.4	1.6	0.2
輸送機械	-2.8	-4.2	-0.6	-3.9	-0.9	-3.6	4.9
建設財	-1.7	1.3	0.2	6.3	1.2	2.1	-1.4
消費財	2.0	0.7	5.6	0.2	-1.9	0.0	-1.3
耐久消費財	3.4	0.0	7.1	6.0	2.1	2.7	-1.2
非耐久消費財	1.2	1.2	3.8	-4.9	-4.3	-2.2	-1.7
生産財	-2.4	-0.9	-2.1	-1.9	-0.5	-1.4	-0.1

(注) 通産省調べ。54年4月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

加から6か月連続の増加となり、資本財輸送機械もトラック(普通、小型)等を主体に増加した。

一方、建設財はセメント、銅電線等が増加したものの、条鋼類(H形鋼、小棒)、アルミサッシ等の減少を主因に4か月ぶりに減少した。また、耐久消費財では出荷好調のエアコン、カラーテレビ、小型自動車、カメラの減少や二輪自動車の在庫調整進捗から7か月ぶりに減少したほか、非耐久消費財も灯油、液化石油ガス等の減少から3か月連続の減少となった。

この間、生産財は、粗鋼、鋼半製品、非鉄加工製品(アルミ圧延品、伸銅製品)、機械構成品(鑄鍛品、一般機械部品、はん用内燃機関、通信・電子部品)、ナフサ、紡績糸、織物(合繊を除く)等が増加したものの、鋼板、ホットコイル、非鉄地金(亜鉛、アルミ)、合成樹脂のほか、出荷著伸のC重油、化学繊維、紙製品(新聞巻取紙、印刷・筆記用紙、包装用紙)等が減少したためわずかながら3か月連続の減少となった。

(設備投資——機械受注<船舶、電力を除く>は2か月連続の増加)

4月の一般資本財出荷(速報)は1~3月大幅増加(前期比+3.8%)のあと-0.4%と減少した。

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	53年		54年	54年		
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	2月	3月	4月
民 需	3,426 (17.7)	3,092 (-9.8)	3,899 (26.1)	3,340 (4.7)	5,168 (54.7)	3,742 (-27.6)
同 (船舶・ 電力を除く)	2,083 (9.1)	2,129 (2.2)	2,253 (5.8)	2,187 (-3.8)	2,299 (5.1)	2,541 (10.5)
製 造 業	1,125 (10.3)	1,151 (2.3)	1,190 (3.4)	1,188 (-5.5)	1,124 (-5.4)	1,500 (33.5)
非製造業	2,304 (21.3)	1,944 (-15.6)	2,657 (36.7)	2,083 (6.5)	3,932 (88.8)	2,221 (-43.5)
同 (船舶・ 電力を除く)	971 (9.4)	991 (2.1)	1,069 (7.8)	999 (-1.7)	1,189 (19.0)	1,055 (-11.3)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

これを品目別にみると、このところかなりの増勢をたどってきた公共投資関連の土木建設機械(装軌式トラクタ、ショベル系掘削機)、クレーン、通信機械等が減少したほか、電力投資関連の電力・通信ケーブル等も伸び悩んだ。反面、民間設備投資関連の金属加工機械、電子計算機、パッケージ型エアコン等は増加を続けた。

4月の機械受注額は船舶・電力を除く民需で+10.5%(前年同月比+29.6%)と前月(+5.1%)に続き大幅増加となった。

業種別にみると、製造業からの受注は自動車が増減した反面、鉄鋼、機械、石油、化学、繊維などが軒並み増加したため、+33.5%と4か月ぶりに大幅増加(前年同月比+46.6%)となった。一方、非製造業からの受注は、前月著増した運輸等の反動減を主因に-11.3%と4か月ぶりに減少(前年同月比+14.6%)した。

この間、官公需は前月に発注集中をみた、電電公社、防衛庁の反動減に加え、地方公共団体の減少もあって、-4.7%の減少(前年同月比-12.2%)となった。

## ◇4月の小売商況は底固さを持続

4月の都内百貨店売上高(百貨店協会調べ)は+1.8%とかなりの伸びを示し、4か月連続の増加となった(前年比+6.4%、前月同+5.2%)。

品目別にみると、天候不順から初夏物衣料の出足がいまひとつのため衣料品が伸び悩んだ一方、

小物家具、リビング用品等は堅調な売行きを続けた。

主要耐久消費財の販売状況を見ると、5月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前月減少(-5.1%)のあと+9.5%と大幅な増加となった。車種別には、主力の小型車、大衆車がニューモデル車を主体に伸長した。家電製品等では白もの家電、カラーテレビ、ステレオが買い替え需要を中心に堅調な売行きを示しているほか、エアコンも出足好調との業界の感触である。

## ◇商況の基調——石油関連品目を中心に続伸

5月の商品市況をみると、棒鋼、綿糸、銅など一部に需要の一服や海外市況の反落などから軟化する品目もみられたが、石油製品(C重油、灯油、ガソリン)、銅を除く非鉄(鉛、アルミ)、建材(合板、製材)が大幅統騰となったほか、石油関連の化学製品(塩ビ樹脂)、合繊(ポリエステル、ナイロン)もひとところに比べやや落ち着き気味ながら上昇を持続、鉄鋼(鋼板類)、上質紙等も強調裏に推移するなど総じて根強い騰勢場面が続いている。

これは、①原油を中心に海外原料品価格が続伸していることから輸入原材料コストが上伸基調を続けていること(石油製品、合繊、化学製品、木材、銅を除く非鉄)、②民間設備投資や個人消費を中心に内需が底固い動きを続けていること(鋼板類、非鉄、紙)、③こうした事情をながめ、先高観の強い石油製品、建材、非鉄などについて流通・ユーザー筋に在庫手当ての動きが根強くみられたことなどによるものである。

## (卸売物価——統騰)

5月の卸売物価は+1.6%と前月(+1.7%)に続き大幅な上昇を示し、前年同月比では+3.5%となった。

品目別には、石油(原油)がOPECの第2次値上げ分の入着や円安から、化学製品(プラスチック発泡製品、キシレン等)が原料コスト高の製品価格転嫁の動きから統騰したほか、製材・木製品(合板、えぞ平割)が海外産地高などから騰勢を強めた。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウェイト	53年	54年	54 年					
		10~12 月平均	1~3 月平均	3 月	4 月	5 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	— 0.7	1.9	0.9	1.7	1.6	0.6	0.2	0.6
食 料 品	140.9	— 0.7	0	0.2	0.5	0.3	0.2	0.1	— 0.2
非食料農林産物	18.9	3.3	11.4	1.7	2.6	5.0	1.8	1.4	2.8
繊維製品	62.9	0.5	2.0	0.4	0.4	0.4	0	0	0.4
製材・木製品	33.6	0.9	7.9	— 0.3	0.9	4.1	1.5	2.2	2.0
パルプ・紙・同製品	28.9	— 2.7	2.3	3.4	2.7	1.1	0.1	0.1	0.3
金属素材	12.6	2.5	15.6	3.4	3.3	0.3	1.0	— 1.1	0.3
鉄 鋼	80.7	0.2	1.8	0.6	0.9	0.9	0.4	0	0.6
非鉄金属	26.1	1.5	10.2	3.7	3.6	1.8	1.5	— 1.0	0.8
金属製品	37.0	— 0.7	0.6	0.2	0.3	0.2	0	0	0
電気機器	73.3	— 0.4	0.6	0.3	0.2	0.2	0.1	— 0.1	0
輸送用機器	74.0	0.1	0.3	0.3	0.4	— 0.1	0	0	— 0.1
一般・精密機器	95.7	0.2	0.7	0.4	0.6	0.4	0.1	— 0.1	0.3
化学製品	91.1	— 0.9	1.3	2.1	4.2	2.0	0.8	0	0.7
石油・石炭・同製品	102.2	— 3.4	2.7	2.6	4.3	8.6	3.3	1.3	2.6
窯業製品	30.5	0.9	2.7	0.2	0.4	0	0	0	0
電力・ガス	25.5	— 8.8	0.6	0.3	9.3	0.3	0.1	— 0.1	0.4
雑 品 目	66.1	0.2	1.4	0.5	1.3	1.0	0.5	0.1	0.5
工 業 製 品	816.4	— 0.5	1.6	0.8	1.2	1.1	0.5	0	0.6
大企業性製品	579.9	— 0.6	1.2	0.9	1.3	1.0	0.4	0	0.6
中小企業性製品	214.6	— 0.1	2.1	0.5	0.8	1.1	0.4	0.4	0.4
非工業製品	158.1	0.2	3.9	1.4	2.9	4.0	1.7	0.9	0.6

(注) 日本銀行調べ。

(消費者物価——5月<東京都区部、速報>は小幅上昇)

5月の消費者物価(東京都区部、速報)は総合で、前月比+0.8%の上昇となり、前年同月比では+2.7%(前月同+2.6%)と引続き2%台の低水準ながら、伸び率はやや上昇を示した。

これは、果物、夏物衣料等が値上りしたことに加え、入浴料、住居費等が料金改訂から、ガソリン、灯油などの石油関連品もメーカーの値上げを映じて上昇を示したことなどによるものである。

◇総合収支は史上最高の赤字

4月の国際収支をみると、貿易収支の黒字幅が大幅に縮小したため、経常収支は小幅ながらも赤字に転じたほか、長期資本収支も引続き大幅な流出超となった。このため、総合収支では、史上

最高の赤字(2,973百万ドル、過去の最高49年1月1,943百万ドルの赤字)を記録した。

経常収支は、貿易外収支がほぼ前月並みの赤字幅となったものの、貿易収支が輸出の不振や輸入の増勢持続を映じて黒字幅が大幅に縮小(前月1,541百万ドル→当月510百万ドル)したため、258百万ドルの赤字となった。

長期資本収支は、本邦資本が円建て外債の発行繰延べ等から流出超幅の小幅縮小をみた反面、外国資本は対日証券投資の処分超等から流出超に転じたため、収支じりでは、2,151百万ドルと引続き高水準の流出超となった。

一方、短期資本収支は、輸出前受金の引落し超や輸入延払いの決済超から135百万ドルの流出超となった。

## 消費者物価指数の推移

(単位・%)

			ウェイト	53 年 10～12月 平 均	54 年 1～3月 平 均	54 年			最 近 月 の 前年同月比
						3 月	4 月	5 月	
東 京	総 合		100.0	0.2	－ 0.2	1.0	1.3	* 0.8	* 2.7
	季 節 商 品 を 除 く 総 合		91.9	0.6	0.1	0.6	1.0	0.7	2.9
	( 季 節 商 品 )		( 8.1)	(－ 5.0)	(－ 2.9)	( 4.9)	( 3.8)	(* 2.0)	(* 0.4)
京	食 料		40.1	－ 1.0	－ 0.6	1.1	0.7	* 0.5	* 0.6
	住 居		11.1	1.4	2.0	0.1	0.6	0.9	6.1
	光 熱		4.2	－ 7.4	－ 0.1	0	7.7	0.1	－ 0.3
	被 服		12.4	3.1	－ 1.8	2.2	－ 1.2	2.7	2.3
	雑 費		32.2	0.8	0.3	0.6	2.1	0.5	4.7
全	総 合		100.0	0.2	－ 0.3	0.8	1.4	…	2.6
	季 節 商 品 を 除 く 総 合		91.7	0.7	－ 0.1	0.4	1.1	…	2.7
	( 季 節 商 品 )		( 8.3)	(－ 4.1)	(－ 2.3)	( 5.4)	( 4.3)	( …)	( 2.2)
国	特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.3	－ 2.1	－ 1.3	3.8	1.7	…	0.8
		工 業 製 品	46.6	0.9	－ 0.8	0.5	0.6	…	1.8
		うち大企業性製品	21.4	－ 0.5	－ 0.2	0.2	0.8	…	0.5
		中小企業性製品	25.2	2.0	－ 1.3	0.7	0.5	…	2.8
		サ ー ビ ス	33.6	0.1	0.7	0.1	2.2	…	4.3

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. \*は速報。

なお 4月の貿易収支を季節調整済み計数で見ると、輸出(7,829百万ドル)は、鉄鋼、繊維等の減少を主因に－4.5%と2ヵ月連続して減少した一方、輸入(7,562百万ドル)は、繊維原料、化学製品等の増加を映じて+1.7%と引続き増加したため、収支じりでは、267百万ドルと前月(759百万ドルの黒字)比一段と黒字幅が縮小した。

この間、外貨準備高は26,107百万ドルと3ヵ月連続して減少した(前月末比2,706百万ドルの減少)。

## (輸出——2ヵ月連続して減少)

4月の輸出(国際収支ベース)は、前月比－4.5%(同前月－0.1%)と2ヵ月連続して減少した(原計数の前年同月比では+1.3%)。

品目別(通関ベース)にみると、事務用機器、光学機器等は増加したものの、鉄鋼、船舶、自動

車、重電機器、化学肥料、繊維製品等が減少した。

5月の信用状接受高(季節調整済み前月比)は、+3.8%と5ヵ月連続して増加した。

## (輸入——引続き増加)

4月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+1.7%(同前月比+3.3%)と前月に引続き増加した(原計数の前年同月比では+34.1%)。

品目別(通関ベース)にみると、小麦、原油、鉄鋼原料、木材等が減少したものの、肉類、繊維原料、非鉄金属鉱、化学製品、繊維製品等が増加した。

5月の輸入承認届出額(特殊大口除外、季節調整済み前月比)は、+8.4%と1年2ヵ月連続して増加。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	53 年		54 年	54 年			前年 4 月
	7～9 月	10～12 月	1～3 月	2 月	3 月	4 月	
経 常 収 支	5,146	2,838	△ 534	290	596	△ 258	1,680
貿 易 収 支	7,351	4,958	1,802	1,088	1,541	510	2,270
輸 出	24,730	26,096	22,876	7,649	9,267	7,810	7,712
輸 入	17,379	21,138	21,074	6,561	7,726	7,300	5,442
貿 易 外 収 支	△ 2,051	△ 1,912	△ 2,000	△ 739	△ 734	△ 698	△ 546
移 転 収 支	△ 154	△ 208	△ 336	△ 59	△ 211	△ 70	△ 44
長 期 資 本 収 支	△ 4,019	△ 5,090	△ 3,639	△ 1,039	△ 2,334	△ 2,151	△ 1,097
本 邦 資 本	△ 3,367	△ 5,102	△ 4,476	△ 982	△ 2,354	△ 1,832	△ 1,303
外 国 資 本	△ 652	12	837	△ 57	20	△ 319	206
基 礎 的 収 支	1,127 ( 581)	△ 2,252 ( △ 2,986)	△ 4,173 ( △ 3,249)	△ 749 ( △ 834)	△ 1,738 ( △ 2,520)	△ 2,409 ( △ 2,652)	583 ( 268)
短 期 資 本 収 支	664	687	199	△ 106	88	△ 135	△ 8
誤 差 脱 漏	△ 146	234	671	94	82	△ 429	△ 346
総 合 収 支	1,645	△ 1,331	△ 3,303	△ 761	△ 1,568	△ 2,973	229
金 融 勘 定	1,645	△ 1,331	△ 3,303	△ 761	△ 1,568	△ 2,973	229
外 貨 準 備 増 減	1,909	3,779	△ 4,206	△ 422	△ 3,874	△ 2,706	△ 1,682
そ の 他	△ 264	△ 5,110	903	△ 339	2,306	△ 267	1,911
外 貨 準 備 高	29,240	33,019	28,813	32,678	28,813	26,107	27,526
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 12,060	△ 15,371	△ 15,620	△ 17,643	△ 15,620	△ 15,826	△ 12,667

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
53 年 7 ～ 9 月	8,122 (+ 4.9)	5,853 (+ 6.5)	2,269	8,381 (+ 6.0)	6,698 (+ 6.2)	5,500 (+ 2.7)	8,421 (+ 3.5)	6,933 (+ 7.7)
10 ～ 12 ヶ	8,348 (+ 2.8)	6,940 (+ 18.6)	1,408	8,495 (+ 1.4)	7,263 (+ 8.4)	5,678 (+ 3.2)	8,679 (+ 3.1)	7,630 (+ 10.1)
54 年 1 ～ 3 月	8,077 (- 3.2)	7,184 (+ 3.5)	893	8,165 (- 3.9)	7,937 (+ 9.3)	5,853 (+ 3.1)	8,374 (- 3.5)	8,230 (+ 7.9)
54 年 1 月	7,833 (- 2.6)	6,914 (+ 6.3)	919	8,050 (- 3.6)	7,694 (+ 4.3)	5,709 (+ 1.5)	8,119 (- 7.4)	8,063 (+ 4.8)
2 ヶ	8,203 (+ 4.7)	7,200 (+ 4.1)	1,003	8,146 (+ 1.2)	8,003 (+ 4.0)	5,797 (+ 1.5)	8,626 (+ 6.2)	8,247 (+ 2.3)
3 ヶ	8,196 (- 0.1)	7,437 (+ 3.3)	759	8,299 (+ 1.9)	8,115 (+ 1.4)	6,054 (+ 4.4)	8,377 (- 2.9)	8,380 (+ 1.6)
4 ヶ	7,829 (- 4.5)	7,562 (+ 1.7)	267	7,749 (- 6.6)	8,390 (+ 3.4)	6,104 (+ 0.8)	8,436 (+ 0.7)	8,440 (+ 0.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(－)率(%)。  
 3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。